

学校図書館を使ってデイジー教科書を

狛江市立狛江第三小学校
学校司書 青木和子



学校図書館とは、全ての児童の読みを保障する場所



「学校図書館ガイドライン」について

学校図書館の整備充実について（通知）

28文科初第1172号 平成28年11月29日

（5）学校図書館における図書館資料

1 図書館資料の種類（抜粋）

発達障害を含む障害のある児童生徒や日本語能力に応じた支援を必要とする児童生徒の自立や社会参画に向けた主体的な取組を支援する観点から、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた様々な形態の図書館資料を充実するよう努めることが望ましい。例えば、点字図書、音声図書、拡大文字図書、L Lブック、マルチメディアデイジー図書、外国語による図書、読書補助具、拡大読書器、電子図書等の整備も有効である。



狛江市立狛江第三小学校の概要

児童数 491名

学級数 16クラス

あおば学級 5名

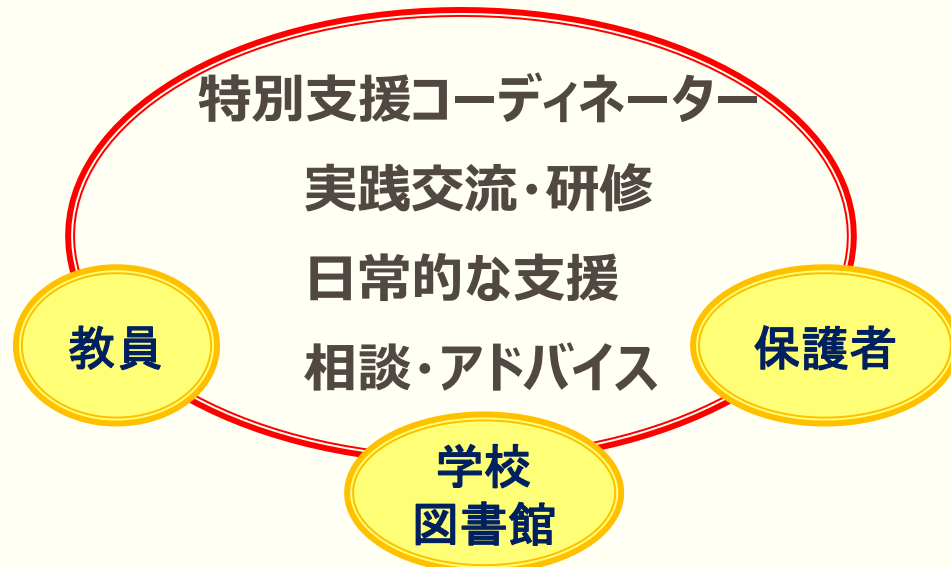
特別支援ひまわり教室 27名

特別支援教室拠点校

(三小・六小) 巡回教員 6名

学校経営方針「つなげる教育」

人をつなげる・言葉でつなげる・心をつなげる



学校図書館でデジタル教科書を管理

学校図書館が窓口になり
学校図書館でIDを取得

利用者ごとに個別の
ID・パスワードを発行
児童や先生，保護者に貸し出し

教科	学年	狛江市 採択教科書
国語	1年～6年	光村図書
算数	1年～6年	学校図書
理科	3年～6年	東京書籍
社会	3年～6年	東京書籍
生活科	1年～2年	東京書籍



学校図書館を使ってデジタル教科書を

家庭学習で



学級で



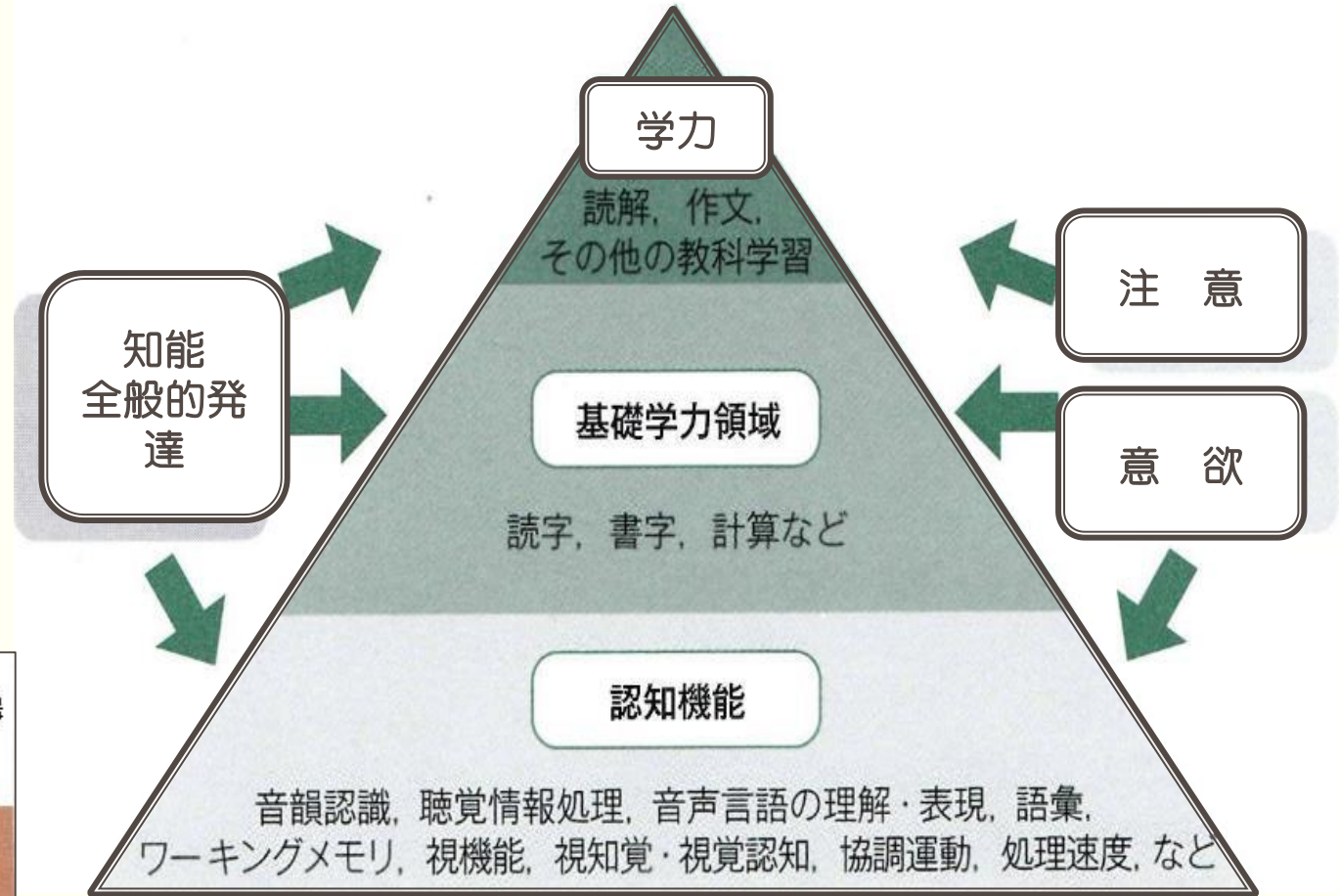
教育相談で



学習のつまずき、どの領域、どの段階

読み書きのつまずき？

- ・音韻認識
- ・視機能・空間認知
- ・衝動性・注意集中
- ・協調運動・筋緊張
- ・ASD
- ・知的発達水準
- ・その他は



奥村智人・三浦明子, 本書における各検査のカテゴリーと位置づけ
『子どもの学びと向き合う 医療スタッフのためのLD診療・支援入門』
(玉井浩監修/若宮英司編) 55 診断と治療社 2016年 より転載

デイジー教科書を始めよう



医療（主治医）
主訴と問診

検査分析

プロブレムリスト+支援プログラム

年齢に応じた学習支援※

ボトムアップ方式

基礎スキルの獲得や定着

強い認知特性，学習場面にうまく利用できる

行動特性を見極め「強み」を活用し，

機能しにくい能力を補う



学校（担任・相談員・司書）



すぐ！始めよう

※水田めぐみ、発達障害の特性を考慮した学習指導について，
『子どもの学びと向き合う 医療スタッフのためのLD診療・支援入門』
（玉井浩監修/若宮英司編）133-134 診断と治療社 2016年を参考に作成

著作権と学校図書館

著作権法の一部を改正する法律 平成21年法律第53号 2010年1月1日 文化庁

(1) 視覚障害者等のための複製等が認められる者

⑥ 学校図書館法第2条の学校図書館

著作権法第37条第3項に基づき作成された
マルチメディアデイジーを扱うために、

狛江三小図書館は

利用登録
確認項目
リストの作成

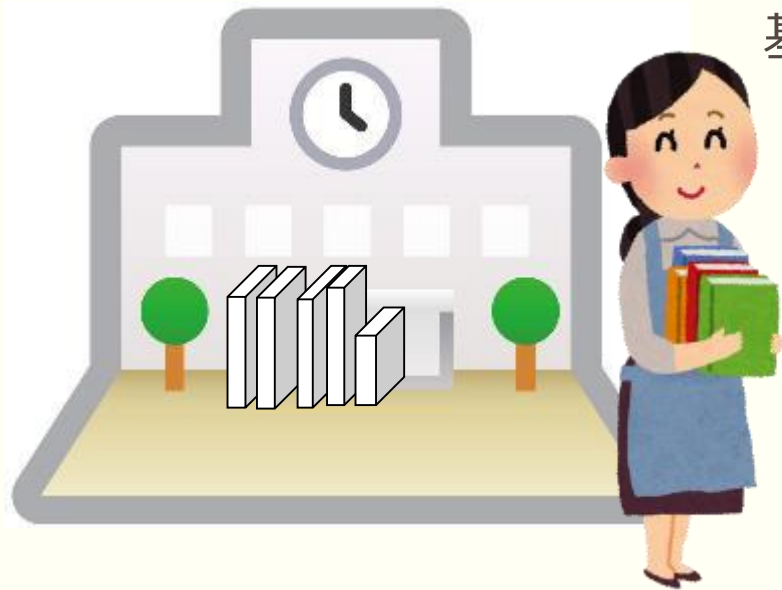


学校図書館が行う確認項目

著作権法第37条第3項に基づき作成されたマルチメディアデイジーなどの利用について

【目的】 狛江第三小学校図書館では、視覚著作物（活字印刷物等）をそのままの方式では読みに時間がかかる或いは読むことに困難を抱える児童に対して確認項目を定め、子どもの発達段階に応じた支援や適切な配慮を行う。

【学校図書館が行う確認項目】 以下の項目に該当する場合は、著作権法第37条第3項に基づき作成されたマルチメディアデイジーなどの利用に応じる。



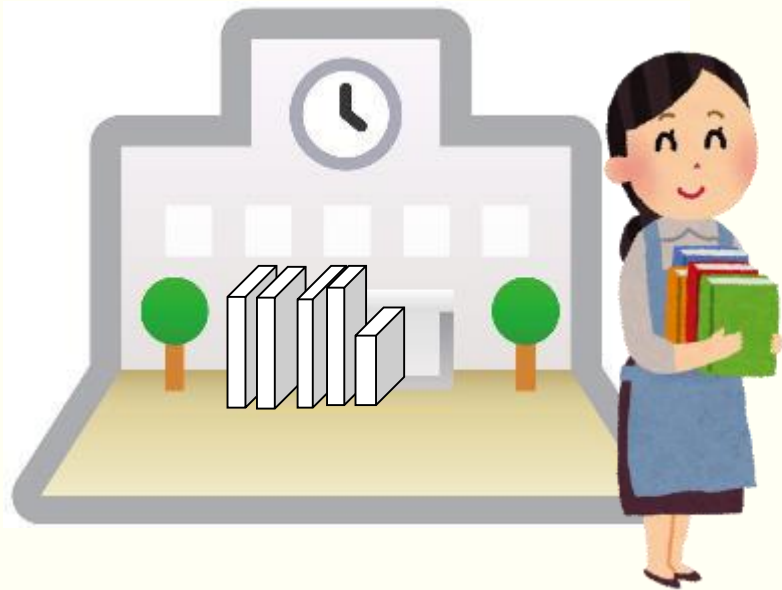
利用登録
確認項目
リストの作成

学校図書館が行う確認項目

典拠

「図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」 国公立大学図書館・全国学校図書館協議会・全国公共図書館協議会・専門図書館協議会・日本図書館協会 2013年

『特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン』 稲垣真澄編 診断と治療社 2010年



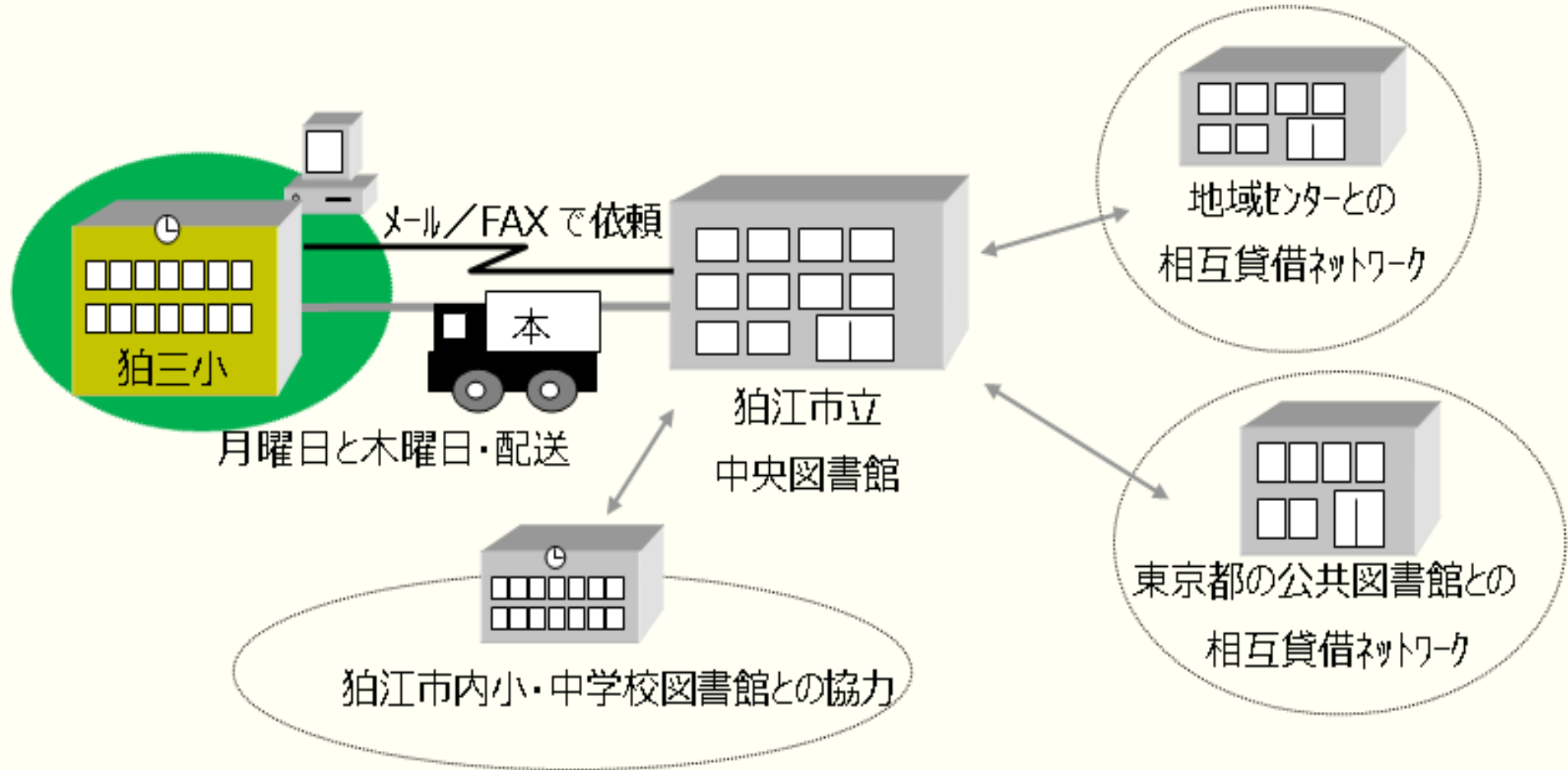
利用登録
確認項目
リストの作成



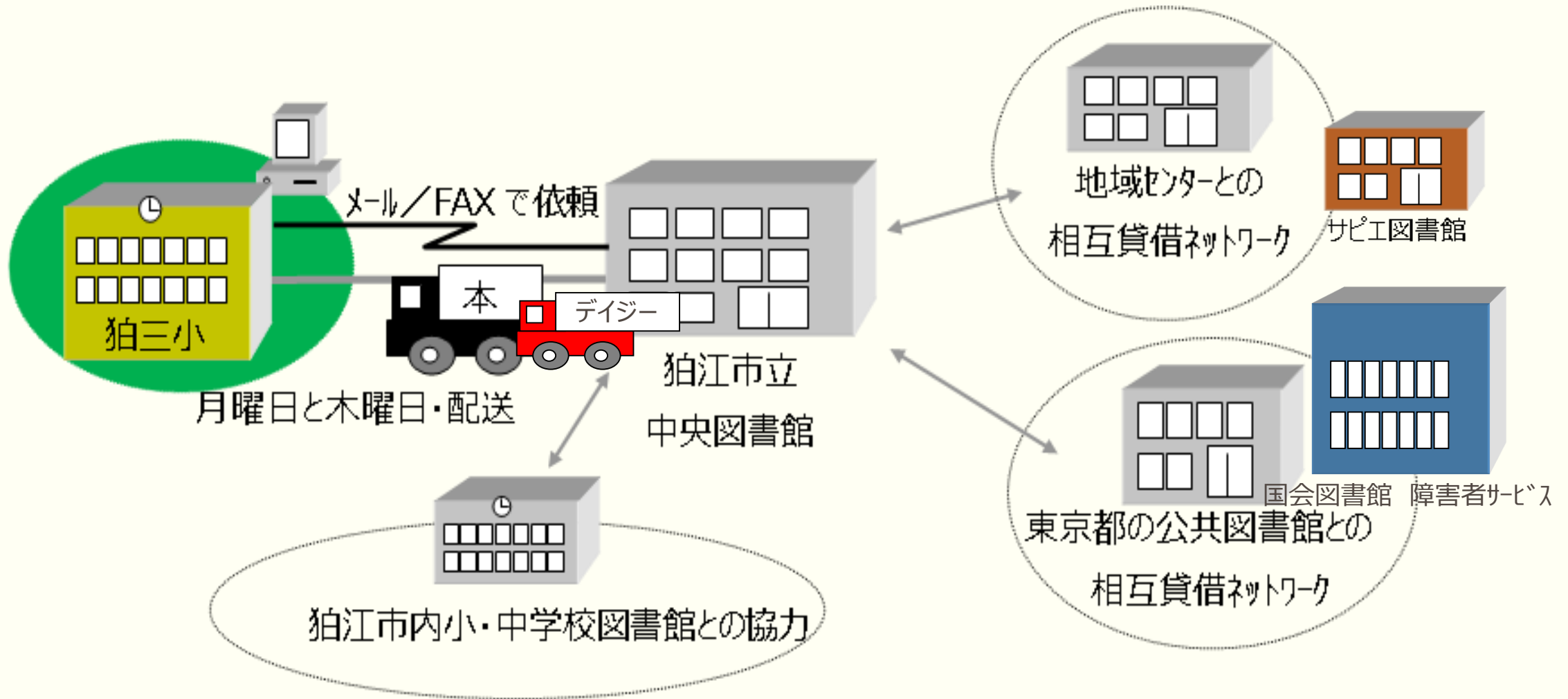
読み書きの症状チェック表

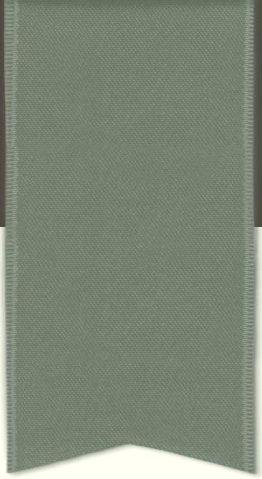
出版社より
転載許諾済み

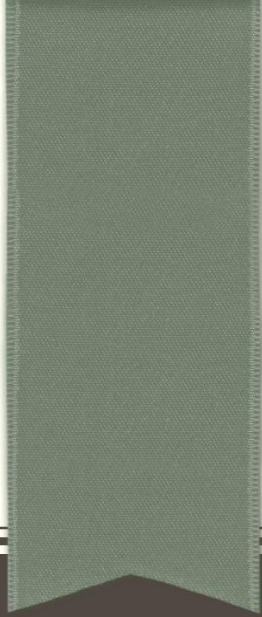
学校図書館に資料が届くしくみ



学校図書館にデジタル資料が届くために







ご清聴ありがとうございました

著作権法第37条第3項に基づき作成されたマルチメディアデイジーなどの利用について

学校図書館が行う確認項目

【目的】 狛江第三小学校図書館では、視覚著作物（活字印刷物等）をそのままの方式では読みに時間がかかる或いは読むことに困難を抱える児童に対して確認項目を定め、子どもの発達段階に応じた支援や適切な配慮を行う。

【学校図書館が行う確認項目】 以下の項目に該当する場合は、著作権法第37条第3項に基づき作成されたマルチメディアデイジーなどの利用に応じる。

A. 申し立て	
必ず	<input type="checkbox"/> 児童（本人）
いずれか1つ	<input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 学級担任 <input type="checkbox"/> 特別支援教室, 特別支援学級の教諭 <input type="checkbox"/> 養護教諭 <input type="checkbox"/> 教育相談員 <input type="checkbox"/> 学校図書館司書
B. 状況のチェック項目	
いずれか1箇所以上	<input type="checkbox"/> 特別支援教室, 特別支援学級に所属している
	心理的負担 <input type="checkbox"/> 字を読むことを嫌がる／文字を書くことを嫌がる <input type="checkbox"/> 長い文章を読むと疲れる／文章を書くことを嫌がる
	読む／書くスピード <input type="checkbox"/> 文章の音読に時間がかかる／字を書くのに時間がかかる <input type="checkbox"/> 早く読めるが, 理解していない／早く書けるが, 雑である
	読む／書く様子 <input type="checkbox"/> 逐次読みをする／書き順をよく間違える <input type="checkbox"/> 単語または文節の途中で区切ってしまう／漢字を使いたがらず仮名で書くことが多い <input type="checkbox"/> 文末を正確に読めない／句読点を書かない <input type="checkbox"/> 指で押さえながら読むと少し読みやすい／マス目や行に納められない <input type="checkbox"/> 見慣れた漢字は読めても抽象的な漢字を読めない／筆圧が強すぎる（弱すぎる）
	仮名の誤り <input type="checkbox"/> 促音、撥音、拗音などの特殊音節の誤りが多い <input type="checkbox"/> 耳で聞くと同じ音（オン）の表記に誤りが多い <input type="checkbox"/> 形態的に似ている仮名文字の誤りが多い
	漢字の誤り <input type="checkbox"/> 読み方が複数ある漢字の誤りが多い／画数の多い漢字の誤りが多い <input type="checkbox"/> 意味的な錯読がある <input type="checkbox"/> 形態的に類似した漢字の読み誤りが多い／形態的に類似した漢字の書き誤りが多い

典拠 「図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」
 国公立大学図書館・全国学校図書館協議会・全国公共図書館協議会・専門図書館協議会・日本図書館協会 2013年
 『特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン』 稲垣真澄編 診断と治療社 2010年より改変
 出版社より 2019年3月転載許諾済み 2019年3月25日 司書・青木和子（起案）